



小学部：長原小学校との学年交流

〈12月8日（金） 小学部1・2年生と長原小学校2年生〉 場所：長原小学校

長原小児童の自己紹介から始まった交流会。本校児童も一人ひとりの自己紹介に興味深く聞いていました。1つめのゲームは「○・×クイズ」で、長原小児童がこの日のために考えてくれたそうです。クイズが読み上げられると○か×か答えを決めて各自移動しますが、正解発表のときにはみんな静かに発表を待ち、喜びや残念の感情が室内をめぐりました。2つめのゲームは「ストップ&ゴー」で、音楽が鳴れば動きだし、音楽が止まれば動きも止めるゲームです。本校児童も長原小児童の様子を見ながら、ストップ&ゴーを楽しむことができました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、対面で並び挨拶をして、交流会を終えました。来年度の交流会も楽しみにし、長原小を後にしました。

〈12月12日（火） 小学部5・6年生と長原小学校5年生〉 場所：長原小学校

長原小児童が扉までお出迎えしてくれ交流会が始まりました。車いすを押されたり、手をつないで一緒に歩いたりして体育館へ向かいました。体育館では花道を作って待っていて、本校児童も嬉しそうに体育館に入ることができました。

長原小児童によるリコーダー演奏では、本校児童も聞き入るように楽しむ様子がありました。また、本校児童が自己紹介も兼ねて名前と楽器の紹介をすると、長原小児童もまっすぐに目を向けて本校児童のことを知ろうとする姿がありました。長原小児童との合奏が始まると、声を出したり、マラカスやタンブリンなどの楽器を自ら鳴らしたりして、楽しい気持ちを表現していました。

ゲームでは、車いすを押してもらって「集まれゲーム」や「中当てゲーム」を楽しみ、賑やかな雰囲気に笑顔いっぱいになりました。

〈12月14日（木） 小学部5・6年生と長原小学校6年生〉 場所：平野支援学校

少しドキドキした様子の長原小児童たち。でも本校児童が自己紹介をすると、しっかりとこちらを注目しました。ボッチャのチームごとに分けられると、盛り上がる声や笑顔があふれていました。ボッチャが始まると、長原小児童は「どうしたらやりやすいかな」と、本校児童に寄り添い、ボール係やランプ係など積極的に関わろうとしていました。そんな長原小児童の様子に安心したのか、普段は緊張しやすい本校児童も、長原小児童の名前を聞くと笑顔になることもありました。

小学部：長原小学校とのふれあいウェンズデー

〈12月13日（水）長原小学校1年生〉

1・2年生は的あて、3・4年生はボウリング、5・6年生はダンシング玉入れをしました。どのゲームもチームに分かれて活動をしますが、チームの枠を越えて応援し合う様子が見られました。ゲームで使うボールなどを手渡しで受け取ったり、斜面台を設置してもらったりしながら、長原小学校児童とふれあう機会もたくさんありました。活発な長原小学校児童に連れて、一緒にはしゃぐ本校児童の姿もあり、盛り上がりを見せる場面もありました。

高等部：阿倍野高等学校との交流

〈12月20日（水）小学部、中学部、高等部が参加〉

阿倍野高等学校吹奏楽部の生徒11名が来校し、様々な楽器を使って演奏しました。平野支援学校の児童生徒は、音楽に合わせて笑顔を見せたり、身体を揺らしたりして楽しんでいました。楽しい雰囲気曲、しっとりとした雰囲気曲などを演奏する中で、全員が雰囲気にあったりアクションをとっていました。また、指揮者体験というワークショップもあり、参加者全員で「銀河鉄道の夜」の指揮を練習しました。阿倍野高等学校の生徒の手本をよく見て真剣に取り組んでいました。

双方共に「楽しかった！」という感想がとても多かったです。「音楽を通じたコミュニケーション」とは良く聞きますが、平野支援学校の児童生徒と阿倍野高等学校の生徒が音楽を通じて一体となっている様子（演奏とリアクション）が正にそれだと実感しました。

高等部：長吉高等学校との交流

〈1月19日（金）高等部〉

長吉高等学校人権文化部（多文化研究会）の生徒35名が来校し、中国・ベトナム・タイ・ネパール・モンゴル・フィリピン各国の民族舞踊を鑑賞しました。それぞれの国の民族衣装を着ていて、すごく華やかな様子に、平野支援学校の生徒も、踊りや音楽に合わせて笑顔を見せたり、身体を揺らしたりして楽しんでいました。高校生が作成したパワーポイントでネパール・ブラジル・フィリピン・アフガニスタンの国々の日本からの距離や首都・食べ物・風習・観光地などを日本語が不慣れな生徒も一生懸命に紹介し、平野支援学校の生徒もしっかりと聞いていました。その後、5つのグループに分かれて各国の遊び体験を行いました。長吉高等学校の高校生たちが掛け声ややさしく話しかけて楽しい雰囲気を作り、平野支援学校の生徒も楽しそうに活動していました。時間がなく体験の時間を短縮しなければならなかったのが残念でした。外国にルーツのある生徒や障がいを持った生徒のことを知るお互い良い学びの機会になったと思います。

小学部：居住地校交流まとめ

今年度は、11人がそれぞれの居住地校で交流を実施しました。初めて居住地校交流を行う児童もいれば、昨年度に引き続き実施した児童もいましたが、どの児童もみんな地域に暮らす友だちと楽しい時間を過ごすことができました。

ふれあい遊びでは、ボールを使った「ゴロゴロドカン」のゲームをしたり、「ロンドン橋」で音楽に合わせて手遊びをしたりしました。他にも、居住地校児童と一緒に合奏をしたり、体育祭で踊った「ジャンボリミッキー」を一緒に踊ったり、『一緒に』できることを楽しみました。

また、今頑張っていることを発表したり、質問コーナーで本校児童のことを知ってもらったりしながら、自己紹介をすることもありました。

終了時間が惜しく、寂しそうな表情を見せることもありましたが、居住地校児童が「次はいつ来るの？」や、「またね！」と声をかけてくれ、嬉しそうな笑顔を浮かべた児童もいました。

地域で顔を合わせたときは、お互いに自然と挨拶ができる良いきっかけとなったことと思います。

中学部：居住地校交流まとめ

今年度は、1人の生徒が居住地校と交流を実施することができました。内容は文化祭の見学で、久しぶりに会う友だちに少し緊張している様子でしたが、あいさつや言葉を交わしたりするなかで、すぐに緊張も解けて、再会を喜んでいました。

開会式では相手校の校長先生が本校の生徒が文化祭を見に来たことを全体に向けて紹介してくれました。会場全体が交流を歓迎しており、とても暖かい雰囲気の中、交流がスタートしました。文化祭の発表が始まると合唱や演劇、クラブ紹介と盛りだくさんの内容でとても楽しんでいました。とくに合唱はコンクールに出場したメンバーによる大迫力の歌声で、とても感動していました。充実した時間を過ごし、とても良い交流の機会となりました。

